

## 平成24年度 第1回CCC社会学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年6月22日（金）午後6時から午後8時まで

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：奥村委員、津田委員、土屋委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、松本職員

### IV. 議事概要

1. 検討内容：教育改善モデル実施に必要な教育力に関する検討を行なった。

(1) 参考資料の内容確認することで議論の方向性を整理した。

- ・「参考1 ファカルティ・デベロップメントとIT活用 2006年版」にまとめられている理想を標準化する必要がある。それまでガイドラインに無かった「教育指導能力」に対する評価の基準（エビデンス）を明らかにする必要がある。具体的には、チュータリングやコア・カリキュラム（組織目標）に関わる課題が挙げられる。
- ・「参考2 中央教育審議会答申（平成20年12月24日付）」では、学識と教育とのあり方の検討が示されており、ある意味でヨーロッパ基準の取組が期待されていると思われる。
- ・「参考4 中央教育審議会大学分科会大学教育部会審議まとめ（平成24年3月26日付）」では、「学修時間」における授業間連携に関わる制度設計が求められている。
- ・「参考6 日本経済新聞記事（平成24年3月27日付）」では、上記中教審議会の提言として、学ばせる仕組みづくりの必要性を紹介している。
- ・「参考7 朝日新聞記事（平成24年6月1日付）」では、大学教育の質を担保する上で、世界的なニーズのズレを確認する必要が説かれている。
- ・「参考8 読売新聞記事（平成24年6月4日付）」では、大学全入時代を受けて、競争力を高めるために、主力学部を設定するという国立大学広域再編へ向けた文部科学省の動きが紹介されている。
- ・「参考12 各委員会における教育力の討議結果」によれば、学識だけではなく姿勢・態度も含んだ内容となっている。

(2) 討議の結果、以下の論点が挙げた。

- ・「期待される専門性→改善モデル実現のための具体的な教育力→FDのような組織的な対応」という流れの中で課題を検討する。
- ・「学修時間」に関わる制度設計としては、「授業間連携・Team Teaching・教学マネジメント」といった主題がある。
- ・社会学独自の「姿勢・態度」として、「問題を解決しようとする意欲」や「適応力と抵抗力」といったものが挙げられる。
- ・「即戦力の知識」は逆に言えば「すぐに役に立たなくなる」ので、「コラボレーション＝ネットワーク形成」に必要な知識としての「教養」を意識させることが求められる。

- ・学生を知識の檻に閉じ込めるのではなく、「開いて」あげることが求められる。その意味で、学生に「教えてもらう」気持ちで話を聞き出すことも必要だと思われる。

(3) 討議の結果、「社会学教員の教育力」における「社会学教員に期待される専門性」として、以下の6点にまとめた。

- ・社会の現象を社会的な問題として捉え、解決しようとする意欲と責任感を持ち、社会に貢献できる専門家であること。
- ・社会を身近な現象と全体構造から捉えるため、複合的な視点に立って探求できること。
- ・他分野の専門領域や社会の様々な現場と連携し、協働して課題に取り組む姿勢を有していること。
- ・仮説と検証を通じて社会現象を解明する科学的方法を活用できること。
- ・自分と社会のつながりを気付かせ、興味・関心を抱かせて主体的に取り組ませられること。
- ・ICTなどの教育技法を駆使して、参加・発信型の教育ができること。

#### V. その他

- ・次回委員会は7月26日(木) 13時30分～予定

以上